平成27年度受入れ経済連携協定に基づく外国人看護師・介護福祉士受入説明会

ながまち荘における外国人介護福祉士候補者の受入れ【事例報告】

社会福祉法人恩賜財団済生会支部山形県済生会
特別養護老人ホームながまち荘
主任介護員（兼）介護支援専門員
（外国人介護士受入・研修担当）
岩 﨑 勝 也
（介護福祉士・社会福祉士・認知症ケア専門士）

社会福祉法人恩賜財団済生会支部山形県済生会

特別養護老人ホームながまち荘　施設概要

（開設年月日　平成2年7月1日）
①介護老人福祉施設･･･定員80名
②短期入所生活介護･･･定員20名
③通所介護･･･定員35名
④居宅介護支援事業所
⑤訪問介護事業所
⑥地域包括支援センター（山形市委託）
敷地　9，477．33㎡
建物　3，739．98㎡
構造　鉄筋コンクリート造り平屋建て

入居者の在所期間　4年
入居者の平均介護度　3．7
平均年齢　84．8歳
（最低年齢55歳～最高年齢102歳

済生会は、全国95の病院・診療所と、300余りの福祉施設等を運営し、54，000人が働く、日本最大の社会福祉法人です。

受入れにあたっての動機・理由

【国際貢献・交流、人材育成】

外国人介護士の受入は、国際貢献・国際交流はもちろんであるが、国試合格を1つの目標に、外国人介護士の育成を図る過程において、「介護の質の向上」にも資する事業である。また、将来的には外国人のマンパワーが必要になると考え、2009年、2人の外国人介護士（インドネシア人介護士）の受入を行った。

施設長　峯田　幸悦

受入れにあたっての準備

* **生活の準備**

アパート（山形済生病院看護師宿舎）の契約
家財道具（石油ファンヒーター、冷蔵庫、ガスレンジ、掃除機、
テレビ、絨毯、布団、毛布、テーブル等）※施設負担で購入

* **支援体制の準備**

山形インドネシア協会（門脇エニータ氏）
山形日本語ボランティア協会（上村淳子氏）

* **周知・理解**

「インドネシアの文化を知る研修会」（勉強会）
（山形インドネシア協会　門脇エニータ氏）
職員会議等
町内会・警察（交番）等へ挨拶等

毎　日　新　聞　〔第3種郵便物認可〕

インドネシア→日本

「介護福祉士」目指し

お年寄りが笑顔に

3年後 試験不合格なら帰国

▼上▲ 風呂から上がり、椅子に腰掛けたお年寄りの女性の髪にドライヤーをかけ、丁寧な手つきでくしを通す。女性は心地よさそうに目を閉じた。ぬれた髪が乾けば、ミルクの入ったコップを、そっと女性の前に置いた。

山形市の特別養護老人ホーム「ながまち荘」（峯田幸悦荘長）で働き始めた県内初のインドネシア人介護福祉士候補者、アグンさん（25）とドゥイさん（24）の日課だ。デイサービスの利用者の世話を始めて、もう2カ月。手つきはずいぶんさまになってきた。「山形弁、おらだが教えてけらんなねっだなー」「めんごいのー」。2人に声をかけるお年寄りの表情が緩む。

「お年寄りにとっては孫のような年齢。2人は言葉がまだ不自由で生活もままならない。でもそのため逆に『ものを教えてあげなければ』とお年寄りにも張りが出てきた」。ながまち荘の岩崎勝也介護支援専門員は話す。そして「デイサービスはお年寄りと話し、笑顔を引き出し喜んで帰ってもらうことが大事。2人は意識せずにそれができている」と評価する。

ながまち荘に来る前に半年間日本語の研修を受けたが、込み入った会話や介護の専門用語などは、まだまだ勉強が必要だ。イスラム教徒の2人はお祈りが1日5回。豚肉は食べず、アルコールは口にしない。異なる文化や食生活、習慣にも慣れなければならない。とはいえ、アグンさんは「山形弁が分からないけど、教えてもらえる」、ドゥイさんも「みんな優しい人で安心した」と柔和な表情を見せる。

だが2人は、3年間実務経験を積んだ後の13年に、介護福祉士の試験を受けなければならない。日本人でも合格率は50％と高くない。ところが、その試験に1回で合格できなければ、2人は帰国しなければならない。一方の受け入れ施設にも人的、経済的負担がかかる課題もある。

◇　◇

日本との経済連携協定（EPA）に基づき、08年度に始まったインドネシア、フィリピンからの介護福祉士候補者受け入れ。全国では現在480人が働いているが、県内では今年1月に、ながまち荘が受け入れた2人が初めて。ながまち荘の取り組みから、問題の所在を探った。

【釣田祐喜】

ＪＲ山形駅に降り立ち、「ながまち荘」職員の子供たちから出迎えを受けるアグンさん（左）とドゥイさん＝1月16日

民主県連新会長に和嶋氏

山形選挙区の公認候補としたことについて

人事

毎日新聞　朝刊　2010年3月29日（月）

学習計画（１年目）平２２年（１月）～平２３年（１月）

【日本語教育】

・研修担当者と日本語学習を行う。※介護・看護に特化した専門用語等（週５日）
・日本語教師（山形日本語ボランティア協会）と日本語学習を行う。※基本的な日本語の文法等（週１～２回）

【国試対策（筆記・実技）】

・日常業務を通して、介護の基本的な考え方（自立支援・尊厳・リスクマネジメント等）や基本的な技術の習得を行う。
・１日の業務の振り返りを記録してもらい翌日、研修担当者が添削を行う。　（毎日）

【職場への適応促進・日本の生活習慣習得】

・オリエンテーション（５日間）
・山形インドネシア協会（門脇エニータ氏）※週１回　日本インドネシア協会（九里氏）※月１回の協力のもと、生活・メンタル面のサポートを行う。
・夏祭りでインドネシアのブースを設け、地域住民にインドネシアカレーとタピオカジュースを無料で提供。地域のイベントへの参加等も行う。

学習計画（２年目）平成２３年（１月）～平成２４年（１月）

【日本語教育】

・日本語教師（山形日本語ボランティア協会）と日本語学習を行う。
※基本的な日本語の文法等（週２回）

【国試対策（筆記・実技）】

・介護福祉士国家試験対策講座受講（明徳福祉専門学校）　全２２回
・介護福祉士国家資格試験対策講座（全老施協）　全３回６日間
・介護福祉士国家試験過去問学習・一問一答等
・部署責任者・研修担当者による介護技術確認
※午前中は学習時間確保のため就労を免除

【職場への適応促進・日本の生活習慣習得】

・山形インドネシア協会（門脇エニータ氏）※週１回　日本インドネシア協会（九里氏）※月１回の協力のもと、生活・メンタル面のサポートを行う。
・地域のイベントへの参加等も行う。

学習計画（３年目）平成２４年（１月）～平成２５年（１月）

【日本語教育】

・日本語教師（山形日本語ボランティア協会）と日本語学習を行う。
※過去問を中心に問題の理解（週２回）

【国試対策（筆記・実技）】

・介護福祉士国家資格試験対策講座（全老施協）　全３回６日間
・介護技術講習会受講（羽陽学園短期大学）
・介護福祉士国家試験直前集中講座（明徳福祉専門学校）　１２月２５日～１月１０日
・介護福祉士国家試験過去問学習・一問一答等
※午前中は学習時間確保のため就労を免除

【職場への適応促進・日本の生活習慣習得】

・山形インドネシア協会（門脇エニータ氏）※週１回　の協力のもと、生活・メンタル面のサポートを行う。
・適宜、部署責任者・研修担当者・産業カウンセラー等との面談を行う。

県内初の外国人介護福祉士・アグンさん（インドネシア）

山形でずっと働きたい

友と支え合い 難関突破

山形市の特別養護老人ホームながまち荘（峯田幸悦施設長）で働きながら勉強を続けてきたインドネシア出身のアグン・マルディアナ・ワヒュニさん(28)が、県内の外国人では初めて、介護福祉士の資格を取得した。夫や子どもと離れ、言葉の壁を感じながらの慣れない生活だったが、ともに頑張ってきた同郷のドゥイ・アストゥティさん(27)をはじめ、多くの人の支えで難関を突破した。2日には県庁を訪れ、吉村美栄子知事に合格を報告した。

「ドラえもん」などのアニメやドラマ「おしん」と、アグンさんにとって日本は、小さなころから身近で憧れの国だった。「いろんなことを日本で勉強したい」。成長するにつれ、思いを深めていった。

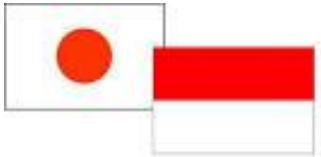
来日したのは、2009年11月。静岡県内で日本語を学んだ後、10年1月からながまち荘で介護職員として働きながら日本語や介護の勉強をしてきた。インドネシアでの看護師経験はあったが、言葉も含めて全てがゼロからの挑戦。コミュニケーションがうまくとれず、何度もつらい思いをした。

そんな時に支えてくれたのは一緒に来県し、ともに資格取得を目指しながら、ながまち荘で働くドゥイさんだった。「外国人」としての思いを共有しながら何度も話し合い、励まし合いながら過ごした3年余り。ことし1月に2人で国家試験を受け、3月末にアグンさんの合格が分かった。全国の合格率は39%と難関で、ドゥイさんには吉報が届かなかった。

県庁を訪問した2人に、吉村知事。アグンさんは「ドゥイさんと2人で支え合えたのが良かった。山形が大好きで、ずっと働きたい。心が通った介護を心掛け、高齢者を自分の親のように世話したい」と意気込む。次の夢は、インドネシアで暮らす夫(28)と小学1年生の長男(6)と、共に山形で暮らすことだ。

2人は日本とインドネシアとの経済連携協定（EPA）に基づく県内初の看護師・介護福祉士候補者として来県していた。

吉村美栄子知事に合格を報告するアグン・マルディアナ・ワヒュニさん ＝県庁



山形新聞　朝刊　2013年4月3日

インドネシア人介護士の受け入れをして

【ホーム・会田主任介護員】
日常的な会話については、全く支障がなかったが、専門用語（意味や漢字）には苦労しているようでした。辞書を片手に、一生懸命努力している姿が印象的です。受入当初は、お祈りや断食日についての不安がありましたが、本人から特に配慮する必要がないとの話があり、特段の配慮をする必要はしていません。

【デイサービス・武田主任介護員】
常に笑顔で対応してくれるため、利用者から大変好感を持たれ、信頼も厚かった。新人職員の良き手本となり、何でも仕事を任せることができました。介護技術の面でも全く問題ありませんでした。
彼女を受け入れて良かったです。

まとめ・今後の課題

外国人介護士の2人は明るくて、いつも笑顔。
勤勉で礼儀正しく、他職員のお手本になる。
日本人と同じ仕事を行うこともでき、
今では施設には必要な人材に。

一方、受入施設の経済的負担が大きいことや国試をパスすることのハードルの高さ、その後、介護職として定着できるのかという大きな課題がある。

今までは日本に慣れようと頑張ってきましたが、
インドネシアのことも忘れてはいけないと強く思うようになりました。
今度はインドネシアのことを広められるように【ジルバブ】を着てます。